CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE 広島 2016年版

（仮称）フローレンス第5丁目共同住宅 新築工事

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。　　欄に数値またはコメントを記入

配慮項目	評価点	重み係数	内訳							
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1 建物の熱負荷抑制										
（コメント） ※配慮事項を簡潔に記載してください	1.0	0.25	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能
	4.0	0.75	LR1	エネルギー	1	建物外皮の熱負荷抑制				
小計	3.3	0.14								
1.2 自然エネルギーの利用										
（コメント） ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用				
小計	3.0	0.05								
1.3 設備システムの高効率化										
（コメント） ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.6	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
BEI値0.87とした										
小計	4.6	0.26								
1.4 設備システムの効率的運用										
（コメント） ※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.1	モニタリング
	0.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.2	運用管理体制
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.1	モニタリング
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.2	運用管理体制
小計	3.0	0.10								
1.5 資源・マテリアル対策										
（コメント） ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	2	雑排水等利用システム導入の有無
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	2.9	0.31								
1.6 ライフサイクルCO2排出率										
（コメント） ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.7	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
自転車の利用促進のため駐輪場、バイク置場を計画										
小計	4.7	0.13								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	**3.7**	**0.68**								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1 温熱環境の向上										
（コメント） ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.49	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出				
	3.0	0.24	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	1.8	0.97								
2.2 交通負荷抑制										
（コメント） ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	3.0	0.03								
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	**1.8**	**0.17**								
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1 耐用性の向上										
（コメント） ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	1	耐震性（建物のこわれにくさ）
住宅性能評価：劣化対策等級を3とした。	3.0	0.13	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	2	免震・制震・制振性能
	5.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	2.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	2.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.0	0.44								
3.2 設備の更新性										
（コメント） ※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保
小計	3.0	0.56								
3.「長寿命化対策」の推進の評価	**3.0**	**0.14**								
■重点項目の総平均（上記3項目）	**3.2**									